



たんとキッズあおき

第6回強度行動障害を有する者の地域
支援体制に関する検討会

令和5年2月28日

資料2

将来、困った状態にならないための予防的支援を目指して

NPO法人たんと
たんとキッズあおき 所長 飯島 尚高

たんと。

Tanto!

NPO法人たんと。 法人概要

たんとキッズあおき

1999年 特定非営利活動法人法のスタートを経て「NPO法人障害福祉地域生活支援センター キープ」設立
2004年 佐久市、飯田市、豊丘村、沖縄県と事業展開する中より、充実した支援を提供するために独立
NPO法人たんと を佐久市長土呂に設立

事業内容：行動援護、重度訪問介護、居宅支援、短期入所 の4事業でサービスを開始
その後、放課後等デイサービスを開始するとともに人員配置の事情により短期入所を休止

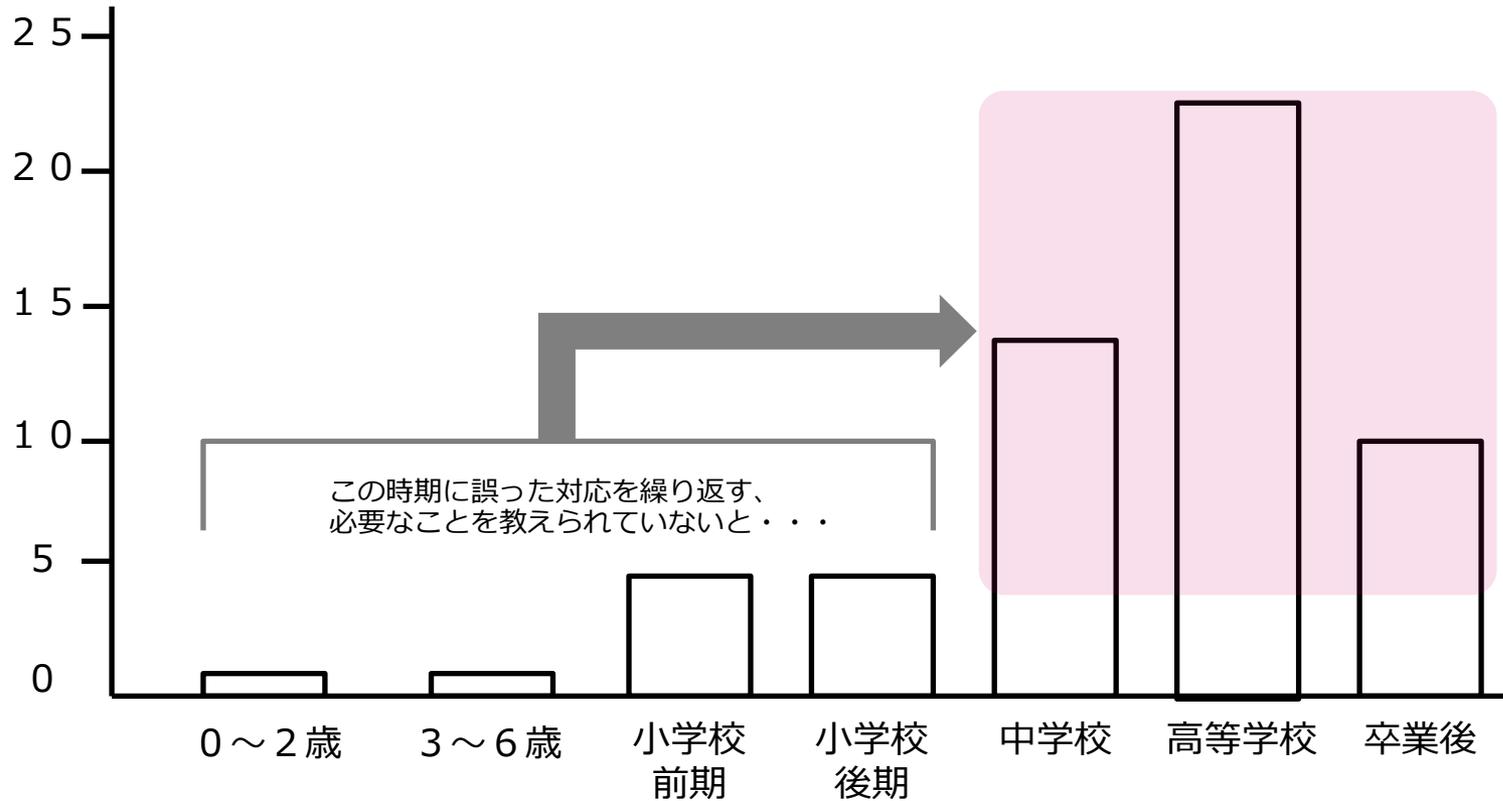
2019年 長野県小県郡青木村に「たんとキッズあおき」を開設
児童発達支援、保育所等訪問、放課後等デイサービス の3事業を開始



<https://www.npotanto.org/>

最も行動障害が重篤であった時期の度数分布

人数



厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業「強度行動障害の評価基準等に関する調査について」報告書
社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会

だから、幼児期・児童期の適切な関わり（例えば、本人に合った学び方でコミュニケーション方法を身につけることなど）が重要

まずは「予防」のための支援

「行動障害」 = 「二次障害」

はじめから行動障害があるのではなく行動障害は様々な要因により作られた状態。



行動障害が起こってしまうと・・・

本人：リカバリーするまでに非常に長い時間を要してしまったり、時には本人がずっとつらい状態を引きずってしまい、本人の人生に大きく影響してしまう。

家族：一緒に暮らし続けたくても、暮らせなくなってしまうこともある。

支援者：行動障害という大変な状態へ対応することになり、多大な労力を使うことにもなり、その状態が長く続くと支援者自身も疲弊しやすくなる。

支援を組み立てる時には、まず
行動障害を作らないようにすることを
考えることが第一。



普段の穏やかな状態の時にも、本人の障
害特性を理解して必要な配慮をしながら
支援をしていくこと。

= 「予防」のための支援。

構造化を行うためのアセスメント

- 無理のない、楽しめる、機能的な内容を「効率的な」方法で構造化していくためにアセスメントは欠かせない

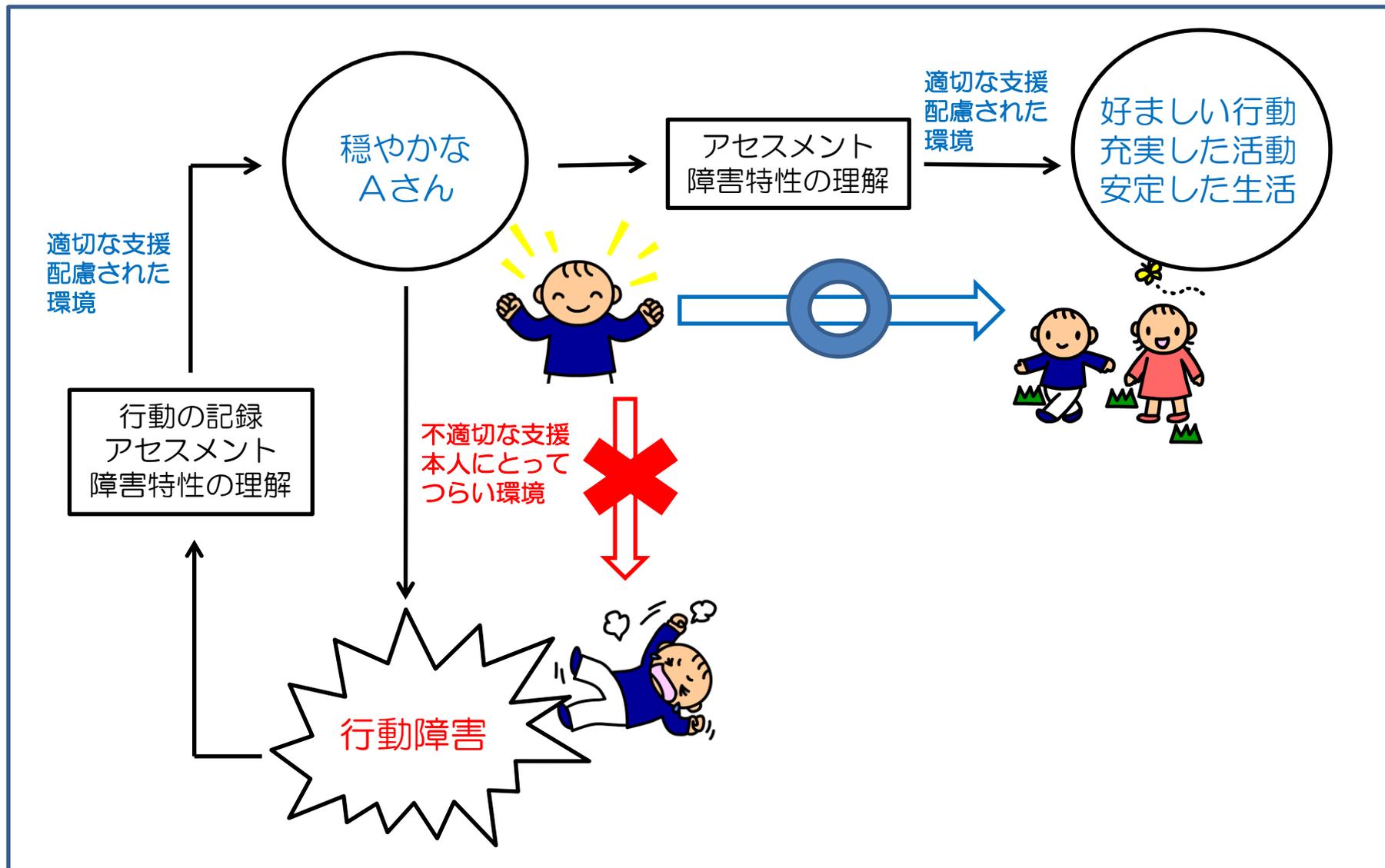
● 注目点 1

本人に出来そうな事 ・ 自立課題等の取り組み方
集中できる時間 ・ 気の散りやすさ・・・他

● 注目点 2

活動水準 ・ 現在もっているスキル・興味
変化への抵抗 ・ 移動への不安の強さ
言葉の理解度 ・ 説明の困難度・・・他

行動障害に対応した支援→予防の支援にもどす。



「早期療育の必要性を感じた事例」

特別支援学校を卒業後、就労支援継続B型に通所を開始した方。

学校が実施していた現場実習時、大きな問題は現れなかった。

当時、まだ構造化・スケジュールなどの支援を学校で実施する事がなかなか難しく、形だけの実施であったり、ご家庭も理解が難しく「言葉がわかるから、言葉で伝えれば十分です」と言われてしまった事例。

- ・お母さんが小さい頃から、独学でがんばって子育てをしてきた。
- ・レスパイトサービスは利用していたが、大きな混乱などもなく育っていた。
- ・高等部になってから、こだわり行動が強くなり始め、自分のリズムでなければ活動することが難しくなってきた。
- ・学校では、課題行動はあったが集団活動に非適応というほどではなく、特に特別な支援はしてこなかった。
- ・現場実習では、先生がついている事が多かったため課題が表面化しなかった。



- ・事業所への支援コンサルテーションの中でアセスメントと取り、得意・不得意を明確にするよう提案をしたが、未実施。
- ・4月からの通所後、作業所のスケジュールに合わせられず、独自の行動を繰り返し職員がマンツーマンで対応しなければならず、改めて支援コンサルテーションの要請が入った。



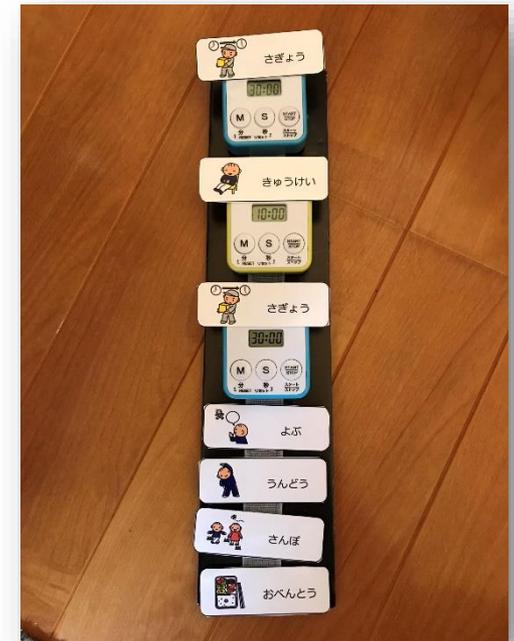
「早期療育の必要性を感じた事例」

構造化などが必要と強く感じたため、行動観察すると同時に、日々の活動で課題になる部分のデータ取りを依頼。

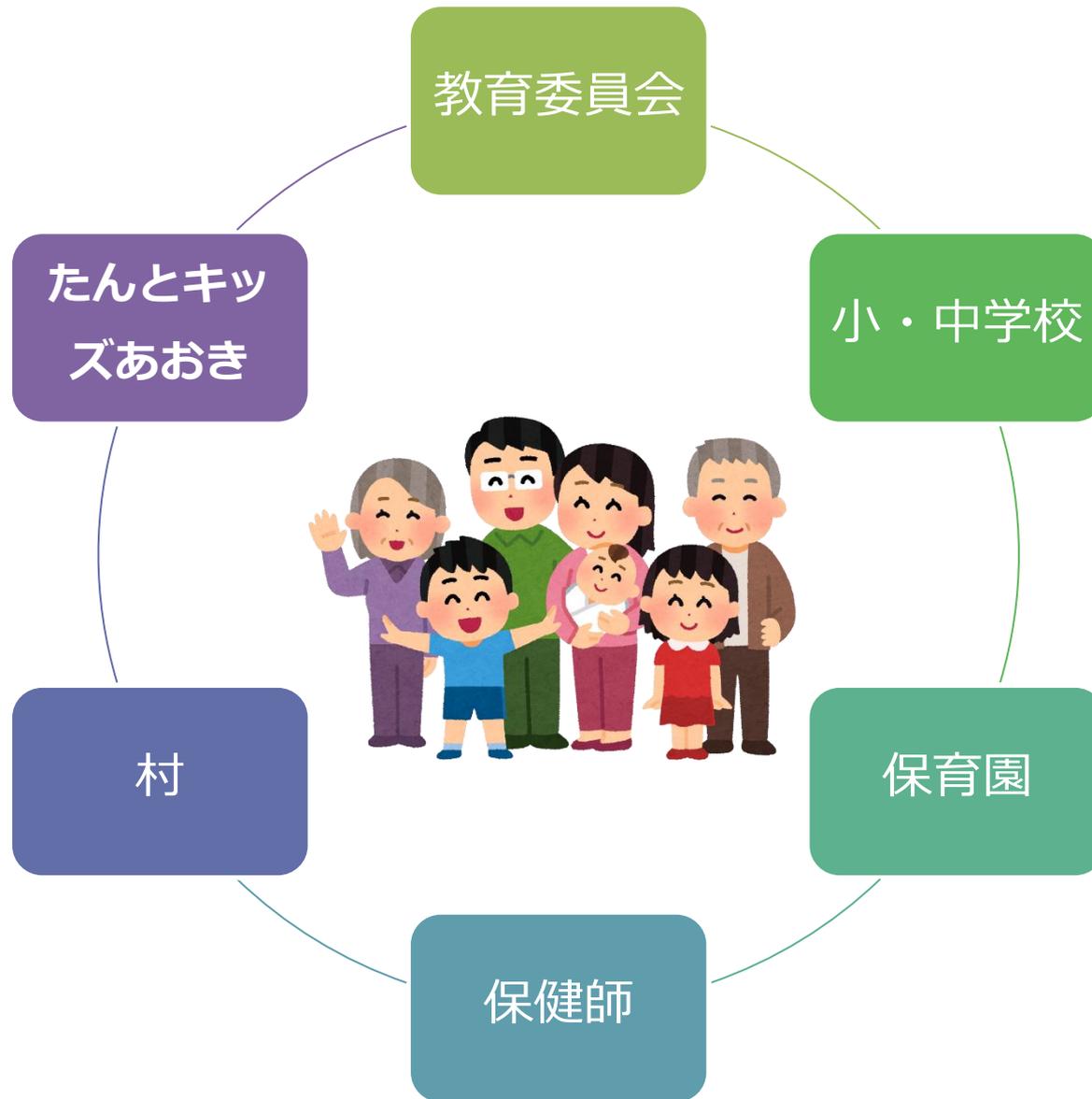
後日、スタッフ全員とカンファレンスを行い、スケジュールの提示方法の見直し、活動の見直しを行った。

1日のスケジュールの提示、内容などを見直し、落ち着いて作業・活動に移行できるようになった。

その都度、現れる行動なども予想や原因がわかるようになったため、対策が早く取り組めるようになり、結果的にかなり落ち着いて作業に参加する事ができている。



「村の子は村で育てる」



「ある小学生の療育」

保育園では加配保育士が、がんばっており小学校に入学した時、小学校のリズムや学習が理解できず、学校内を走り回り、課題行動を繰り返しており、特別支援学校への転校を検討されていた児童。

毎日	地域の小学校に通学
放課後等 デイサービス	小集団で、就業後の過ごし方を経験
支援学級	保育所等訪問で教室内の構造化、活動確認 & 必要に応じてカンファレンス
通院	家族と話し合い、実態を理解してもらい通院を開始。 服薬を行い、気持ちの落ち着きを測った。



1年間、継続した結果
現在は、支援級の簡易
パーティーションのみで
学習できるようになって
きた。
また、クラスの中で過
ごす時間が増え。学校
生活が送れるように
なっている。



「未就学児の療育」



保育園の担任や加配の先生が困ってしまっている
お子さん



保育園に訪問し、行動観察



療育が必要と感じた場合は、教育委員会に連絡し
村専従の心理士により発達検査を実施



結果を保育園が家族に報告し、療育を提案



アセスメントを実施後、療育開始

「ある幼児の療育」

保育園では、加配保育士がついているが行動が落ち着かず、活動に参加するのが困難な児童に小集団療育と小学校に上がっていくことを想定した個別療育を実施

毎日	青木村保育園に通園
週1回	小集団療育を児童発達支援で実施
毎週木曜日	保育所等訪問で保育園での活動(大集団)を確認&必要に応じてカンファレンス
週1回	お昼寝の前に個別療育を保育所等訪問で実施

「ある未就園児の療育」

保育園で、スムーズに活動に参加し友だちと同じ空間で過ごせるように、未就園の児童(2歳児)に対しても、保健師から相談が上がってくると同時に支援を提供開始

週1回	小集団療育を児童発達支援で実施
月2回	地域の未就園児の集まりに参加し、同世代の関わり経験を増やしていく
	課題などが出てきたところで、支援会議を開催し、チームで支援体制を作成

「就学児の療育」

担任や支援の先生が困ってしまっているお子さん



小学校に訪問し、行動観察



療育が必要と感じた場合は、教育委員会に連絡し
村専従の心理士により発達検査を実施



結果を小学校が家族に報告し、療育を提案



アセスメントを実施後、療育開始